

本日は皆様ご多忙のおり、本校 PTA 会長 石川雅章様、清水区区長村岡弘康様はじめ学園の内外から多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に高等学校第 18 回卒業証書授与式を挙行できますこと、高い席からではございますが、心から御礼申し上げます。

高等学校 261 名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。

私は 3 年前皆さんと一緒にこの静岡翔洋高校にやって参りました。新しい制服に変わって初めての新生であり、私も皆さんと一緒にこの学校に入学してきたような思いで入学式を迎えたことを覚えています。私は皆さんの入学式の日 2014 年 4 月 7 日にこう語りかけました。

「希望こそが生きる原動力」です。

もちろん一人の力で目指す希望もあるでしょう。しかし、学校という場は勉強を学ぶ場でありながら、同時に、多くの仲間とともに希望に向かってすすんでゆく、そして仲間と力を合わせて何かを成し遂げ、形にしてゆく場でもあるということです。

生きる原動力になる希望を持った人間は強く、そして、そういう

人々は試練も乗り越えられるはずです。苦しさや悲しみを経験しながら大きな喜びや感動を仲間と共に得ることができると思うのです。

私は3年後に皆さんにこう問いたいと思います。「みなさんは高校生活を送るための原動力となる、希望というものを見つけましたか。そして、その希望目指して友と仲間と日々切磋琢磨して、多くの汗や涙を流しましたか」と。その時、みなさんはどんな答えを私に返してくれるのでしょうか。

さて、その約束の時間が今日来ました。ここでみなさん一人ひとりの答えを聞くことはできません。しかし、一人ひとりが私への答えを思い浮かべることができるはずです。自分はこの問いに「こう答えることができる」というものを持っている卒業生は充実した3年間を送ることができた人であると私は思います。願わくば、ここにいるすべての卒業生がそうであってほしいと思います。

さて、みなさんが旅立つ世界、社会情勢はますます混迷を深めていると言わざるを得ません。自由、平等、平和、共存と言った美しい言葉が、差別、蔑視、分断、対立などという否定的な言葉で塗り込められてしまいそうな勢いです。

私達が願っているささやかな幸福、静かで平和な暮らしを日本と

いう島国だけで語るができなくなっている現実。グローバルな社会というのは、結局、国と国の距離が縮まり、密接にかかわりあいを持たざるを得なくなったということ、他国の出来事が翌日には日本にも影響を及ぼしてしまう、世界が狭くなっているということを意味しているのでしょう。

私は昨年夏、柔道部の全国大会の応援に出雲へ向かいました。その電車の中で読んだ本の一節にこんな言葉を見つけたのです。

「あなたはどんな話のどんな役をしているのか」とある人がたずねました。彼はこう答えたのです。

「ぼくは、ぼくの人生の主役をしながら、まわりのひとの人生の脇役をしています。」

私はこの言葉にハッとさせられ、思わず本を置きました。

「ぼくは、ぼくの人生の主役をしながら、まわりのひとの人生の脇役をしています。」

人生の主役は自分自身であることには間違いがありません。しかし同時に、他の人々の人生にとって自分の存在は重要な脇役でもあるということ。この当たり前のことを今更ながら教えられたのです。

自分の人生を主役として生きながら、同時に周りの人々にとって

自分は大切な脇役であるという謙虚な自覚さえ持っていれば、たとえば、世界がどう変わっていこうとも、平和な世界を築くことができるのではないかと思ったのです。主役は脇役が存在しなければ輝くことはできません。脇役も主役がいてこそ、その存在の意味があります。どうか「君たちは君たちの人生の主役をしながら、君たちのまわりのひとの人生の素晴らしい脇役を今後もして行って欲しい」と思います。

さて、卒業生の皆さん、静岡翔洋高校からは美しい富士が見えます。永遠にそびえ立つ富士のように皆さんの仲間と培ってきた友情もいつまでも続くことでしょう。静岡翔洋は思い出の場所になりますが、その思い出を共有できる仲間がいるということは、素晴らしいことなのです。

どうか、翔洋生らしくたゆみなく雄々しく、希望に向かって歩みを進めてください。希望こそ生きる原動力です。

素晴らしい人生の「門出」となることを祈念致しまして、「告辞」といたします。

卒業おめでとう。